

GREEN CAMPUS

新入生歓迎！

みんなの生協にインタビューしました！



「知る→活用する→毎日が楽しくなる」

特集：生協へインタビュー！
合同記念事業について



農学部 生物生産学科

農業市場学研究室



農業・農村を取り巻く5つの市場に接近する

突然ですが、「農学」は、実に面白い学問です。そして、極めて社会との関係を重視した学問でもあります。そのことは、自然科学と社会科学とが渾然一体となって融合され、1つの学問を形成しているところからも理解することができるでしょう。その「農学」を社会科学の分野から支えている学問の1つに、「農業市場学」が存在しています。

そして、その農業市場学が対象としている「市場」には、5つの領域が存在しています。まず、第1に、農産物市場です。米や麦といった穀物や野菜、果実、畜産物などの直接食料として消費される農産物に加えて、繭や葉たばこ、サトウキビなどの原料として加工される農産物を対象にして、その生産や加工、流通、そして消費に至る過程に関する市場です。「農業市場学」では、最も重要な市場の領域です。第2に、農家購買品市場です。食料や生活用品などの生活資材や種子、農薬、肥料などの生産資材の供給と需要に関する市場です。第3に、農地市場です。土地は、本源的には商品ではありません。しかし、資本主義での経済活動の下では、擬制的に商品化され、土地（農地）調達のための市場が形成されています。第4に、労働力市場です。農業に必要な労働力を調達するための市場です。第5に、農業金融市場です。農業に必要な資金を調達するための市場です。

これらの領域の中で、私たちの研究室では、特に農産物市場に係る領域の研究に取り組んでいます。そして、複雑化し、多様化するとともに、国際化してきている現代の流通機構を読み解くために、有機農産物の流通や地産地消といった、もう1つの農産物流通に係る領域の研究にも取り組んでいます。

現在の中心的な研究課題としては、「加工用トマトの生産者とその出荷先となる食品加工企業との契約取引に関する研究」を行っています。この研究では、生産者と取引企業との関係性やその間で生じる問題などを検討することによって、農業生産に対して、どのような影響が生じるのかについて分析を行っています。そのために、生産者や企業への聞き取り調査を行うことによって、その実態を詳細に把握し、分析するように努めています。その際には、単なる取引関係という経済活動からの分析だけでなく、各生産者の作業工程、例えば、施肥や農薬の散布回数、その種類の相違による生産量への影響などについても、分析を行っています。この部分を見ると、実験圃場でのデータ収集のような分析に近いともいえます。このように、農業市場学は、農業・農村の現場と私たちの暮らしに密接した研究分野であると考えられるでしょう。

より具体的な内容については、研究室のホームページ (<http://www.tuat.ac.jp/~amtuat/>) を参照して見て下さい。指導教員である野見山敏雄先生をはじめ、博士・修士課程の大学院生や学部生、さらには修了生や卒業生の研究課題を見ることができます。



(写真左) 千葉県 JA ちばみどりの野菜農家を対象とした農家調査。(写真右) 神奈川県三浦市にある農産物直売所の調査。左端は野見山教授。(写真最上題左) アメリカ・カリフォルニア州のCSA (フェアビューガーデン) に併設されている直売所